

リレー・フォー・ライフの寄付金は、 このようにがん患者支援に役立てられています。



若手医師育成奨学金

日本対がん協会が、全米屈指のがん専門病院である米テキサス大学 MD アンダーソンがんセンターと連携して設けた「マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞」。この賞は 2011 年に始まり、がん医療に携わる日本の若手医師に、同センターで 1 年間研修してもらうプログラム。患者・医療者同士・社会とのコミュニケーションをどのように図つていけばいいか、また臨床試験はどう進めるかなどを幅広く学び、日本の地域のがん医療をリードする医師の養成を目的としています。

**MD アンダーソンがんセンターは、
がん患者ケア・がん研究・がん教育と予防について、
世界でもっとも評価の高い病院の一つです。**



●最先端の技術を有する医療機関

癌の治療・研究・教育・予防を専門とする大規模がんセンターで、癌を撲滅することをミッションに、革新的な治療法を提供し続ける努力をしています。ここで働く医師たちは、癌治療の国際的なリーダーと知られ、過去にも数多くの治療が開発されており、米国内において最も多くの癌患者を診察しています。

●世界 16 力国のネットワーク

世界 16 力国の 22 法人を含む姉妹機関のネットワークを構築しています。姉妹機関各々の共同研究領域に関連する学部で互恵関係を結び、留学制度、医学研究発表会、共同研究プロジェクトが推進されています。ネットワークを構築することで、世論を動かし、がん研究に関する知識を世界規模で向上させています。

●各所で評価されている信頼

1.U.S. News & World Report's Best Hospital



アメリカ 3 大ニュースメディアの一つ、U.S. News & World Report が '90 年から運営している賞。数千の病院を対象に、がんをはじめ 16 の専門分野で評価を行う。

MD アンダーソンがんセンターは、常時 2 位以内にランク。

3.Certified Age Friendly Employer



RetirementJobs.com が運営。従業員に対し快適な職場を提供するプログラム。MD アンダーソンがんセンターの以下の実績を評価。

- ・全従業員の教室研修とオンライン研修の受講が可能。
- ・週 20 時間以上勤務する従業員には、授業料の返還制度。
- ・50 歳以上の従業員の健康や定年後のサポート。
- ・長期間勤務してきた従業員へのギフトや表彰制度等。

2.Magnet Recognition Program



American Nurses Credentialing Center(ANCC、アメリカ看護師資格認定センター)によって運営されているプログラム。看護面で特に優れた施設に対して表彰を行う。

MD アンダーソンがんセンターは以下の 3 点で高い評価。

- ・患者が看護師から常に質の高いケアを受けることができる。
- ・看護スキルが高く、且つスキルを伸ばす組織が整っている。
- ・他の組織やパートナーとの連携がよくできている。

4.CEO Cancer Gold Standard



CEO が集まり、がんの未然防止・早期発見、がん患者に対する質の高いケアを目標としたプログラム。MD アンダーソンがんセンターはこのプログラムを実施している機関として認定。

▼第1回目の受賞者 増田紘子さんからのメッセージ

(右から5人目が増田さん)



初めまして。岡山大学呼吸器・乳腺内分泌外科の増田紘子です。

皆様の温かいご支援のもと、米テキサス大学 MD アンダーソンがんセンターで研修を始めて5ヶ月。研究者として私が行っていることは、大きく分けて二つあります。一つはホルモン感受性や HER 2 たんぱくといった有効な治療ターゲットがまだ明らかにされていないトリプルネガティブ乳がんを、mRNA 解析により治療効果や予後に即したグループに分け個々の患者さんに有効な治療を行うための鍵を見つけること、もう一つは、炎症性乳がんという稀な乳がんながら、早い進行再発と皮膚浸潤により QOL を著しく低下させる予後不良な乳がんについて生物学的性質を知り、有効な治療法を探すために、MD アンダーソンがんセンターでの膨大な患者さんのデータをまとめ、検討することです。日本との大きな違いは、時間も含め資源に非常に恵まれていることです。組織としての成熟さと、データ管理のシステムが機能的に働き、また、医師の仕事の重心が研究にあり、医師は研究者である、ということを痛感します。臨床と研究の間がとても近く、日々生まれる新しい治療の可能性を身近に感じることのできる環境は、本当に貴重な経験となっています。先生方に出会い、熱意に触れ、自分の至らなさに気づく、それだけでも私にとって医師として成長できる大切な機会だと感じています。リレー・フォー・ライフの活動を通して皆様が与えてくださったこの機会は、これから医師にとって自身を成長させてくれる貴重な経験となることは間違ひありません。この機会をくださった皆様と、現在未熟な私に、素晴らしい機会を与えてくださっている MD アンダーソンがんセンターの上野先生に胸いっぱいの感謝を込めて。ありがとうございます。

日本の皆様、リレー・フォー・ライフの会場でお目にかかる日を楽しみにしています。

▼リレー・フォー・ライフの寄付をもとに研修を受ける方からのメッセージ

KKR 札幌医療センター斗南病院の古川孝広さん



私は様々な医療団体間の連携を加速させ、若いがん専門医たちが重要な情報に簡単にアクセスできて、国際医療コミュニティで議論できるような情報共有基盤のようなものを作りたいと考えています。このようなすべての取り組みが、がん患者に対してより親しみやすい社会を作り、それが世間一般やプライベートな支援に広がることを可能にします。私の大きな夢は、日本からがんをなくし、世界からがんをなくすことです。そのために私の人生を捧げるつもりです。このもっとも大切な目標を勝ち取ることに情熱を注ぎます。

栃木県立がんセンターの原尾美智子さん



『がん患者（治癒している、していないに関わらず）に充実した人生を与えること』これが私の願いであり夢です。不幸な事ですが、がんを根治出来ない患者は常に存在します。また、がんが治ったとしても、残りの人生をずっと再発に怯えて生きることになります。私は患者それぞれが人生を全うするための手助けをする医療組織を設立したいと思っています。私は最も先進的ながんセンターについて学び、その知識を持ち帰って日本のがん患者治療に生かしたいと思います。夢を実現する機会を与えて下さったことに改めて感謝致します。